

第 1 回 館山市総合計画審議会 会議記録

- 1 日時 平成 26 年 7 月 25 日（金） 13 時 30 分～15 時 35 分
- 2 場所 館山市コミュニティセンター 第 1 集会室
- 3 出席者

委員構成	氏 名	役 職
市議会議員	石井 敏宏	市議会議員
	三澤 智	市議会議員
	望月 昇	市議会議員
	森 正一	市議会議員
教育関係者	石井 誠	国立館山海上技術学校 推薦
産業関係者	杉井 繁樹	館山商工会議所 推薦
	鈴木 久雄	館山市漁業協同組合連合協議会 推薦
	小金 晴男	一般社団法人 館山市観光協会 推薦
	原 徹	公益社団法人 安房医師会 推薦
	須田 敏男	館山市地域公共交通会議 推薦
	吉田 南子	館山市地域包括支援センターなのはな 推薦
	安田 憲史	一般社団法人 館山青年会議所 推薦
知識経験者	石井 久治	館山市町内会連合協議会 推薦
	鈴木 正弘	社会福祉法人 館山市社会福祉協議会 推薦
	三浦 英喜	館山市体育協会 推薦
	古橋 博子	館山市子ども・子育て会議 推薦
	田中 真由	公募委員

(欠席者) 半澤美緒子委員, 高橋實委員, 溝口かおり委員

4 議題

- (1) 会長の選任及び会長の職務代理者の指定について
- (2) 第4次館山市総合計画策定の諮問について
- (3) 第4次館山市総合計画策定方針について
- (4) 第4次館山市総合計画策定スケジュールについて
- (5) 館山市市民意識調査（案）について
- (6) その他

5 会議の経過

- (1) 開会
- (2) 市長挨拶

金丸市長：

本日は御多用の中、第1回館山市総合計画審議会にご出席を賜りまして、誠にありがとうございます。

また、この度は、本審議会委員への就任に快くご快諾いただき、重ねて御礼を申し上げます。

さて、現在、館山市では、平成13年度から平成27年度までを計画期間とする第3次館山市総合計画におきまして、「輝く人・美しい自然 元気なまち館山」を将来像としたまちづくりを進めております。

また、平成23年度から平成27年度まで第3期基本計画では、「活力あるふるさと館山の実現」という視点から、「健康で安心して暮らすことのできるまちづくり」、「経済活性化によるまちづくり」、「財政の安定と健全化」の3本を柱とした取組を行っております。

そうした中、地方分権の進展や急速な少子高齢化、グローバル経済下での景気低迷、平成23年3月の東日本大震災を契機とした安全・安心への関心の高まりなど、社会経済情勢は大きく変化してきております。

このような様々な課題を乗り越え、館山市が将来にわたって持続可能なまちづくりを行っていくためには、長期的な視点に立ち、これまで以上に効率的な行政運営が必要とされます。

そのため、この度、平成28年度から平成37年度までの10年間の展望した新たな総合計画として『第4次館山市総合計画』を策定することとなりました。

この新『総合計画』の策定に当たり、本審議会では、必要となる調査・研究及び素案作成にかかる審議を、今後約1年半掛けて行っていただく予定です。

一方、皆様のご記憶にも新しいと思いますが、本年5月8日に民間有識者組織である『日本創成会議』が、将来推計人口に関するデータを発表しました。その内容は、若年女性の減少に伴い、2040年時点で、人口を維持していくことができない消滅可能

性都市が、全国で 896 自治体生まれ、その中に館山市も含まれるというものでした。日本全国で進行している「人口減少社会」への移行は避けられません。

将来を完璧に見通すことは確かに困難ですが、何も手を打たないでいれば、いずれは日本全体が危ういという、まさに生き残りをかけた地方自治体への警鐘であると受け止めています。

これから皆様方にご審議いただく新『総合計画』では、長期的な視点に立って、人口減少や少子高齢化問題への対策をはじめ、子育て環境の整備、防災対策の強化、生活基盤の整備、施設の耐震化、老朽化対策、雇用の場の確保など、取り組むべき山積する課題を複合的に捉え、「限られた条件、限られた資源の中で、現代に生きる私たちはどのようにしてこの館山を守り育てていくのか」、「館山の財産とは何か」、「館山の将来にとって本当に大切なものは何か」といったように、総合的に館山の将来像を考えていかなければなりません。

そのため、新『総合計画』の策定に当たっては、「館山市の生き残りをかけたまちづくり」の方向性を、市民全体の課題として共有し、共に考え、共に実践していけるような、市民総意の計画づくりを進めてまいりたいと考えています。

私は、館山市には、美しく豊富な自然と、誇り高き伝統・歴史、豊かな食文化、そして「ホスピタリティ・おもてなしの心」があり、それらのポテンシャルは非常に高いと考えております。こうした価値を改めて認識し、「無いものねだりではなく、あるもの選び・あるもの磨き」をすることにより、ふるさと館山への愛着が生まれ、地域の誇りを守ることができます。そして、何よりも、住んでいる人が幸福であることが一番大事であります。「どのような世代にとっても、幸福度の高いまち」、「住んで良かった、住み続けたいと実感できるまち」、「元気で笑顔があふれ、市民一人ひとりが輝き、活みなぎるふるさと館山」、そんな「未来に夢と希望が持てるようなまちづくり」のプランニングを皆様方とともに進めてまいりたいと考えております。

本業の傍ら、皆様方には、多くの資料やデータをお読みいただくなど、ご負担をお掛けすることになるかと思いますが、日頃から様々な分野で活躍されておられる委員の皆様方の、永年培った豊富な経験と見識を基に、どうか活発なご審議をいただきますようお願い申し上げます。

結びに、各界各層の代表であります委員の皆様方には、館山市行政へのより一層のご指導、ご協力を賜りますようお願い申し上げまして、挨拶とさせていただきます。

本日はどうぞよろしくお願いたします。

- (3) 委嘱状交付
 - (4) 委員自己紹介（事務局自己紹介）
 - (5) 議事
- ①会長の選任及び会長の職務代理者の指定について
会長：杉井繁樹委員

職務代理者：半澤美緒子委員

②第4次館山市総合計画策定の諮問について
諮問

③第4次館山市総合計画の策定方針について
(事務局より説明)

杉井会長：

只今、事務局より説明をいただきました。質疑やご意見はございますでしょうか。

石井(敏)委員：

資料2, 3ページの計画の期間について、事務局案では基本構想10年、基本計画5年ずつとなっていますが、基本構想が12年や20年、基本計画4年で実施している自治体もあります。

私は基本計画4年、基本構想は8年もしくは12年が良いと思います。

なぜ4年間かという、市長と議員の任期がいずれも4年間だからです。

一般論になりますが、市長、議員は4年間でやりたいことを政策に掲げて選挙に臨み、4年後に実績を判断されるなど、4年単位で物事を考えています。5年だと期間がずれてしまい、総合計画と関係の無い施策を推進したり、総合計画にあることを否定したり、基本計画の実効性が薄れてしまうと思います。

議会改革の勉強会の中でも、研究の第一人者である山梨学院大学の江藤教授が基本計画を任期の4年間に合わせたほうが良いのではないかとおっしゃっていました。

実際、北海道のニセコ町など4年でやっているところもあるので、基本計画を4年とすることについてご検討いただければと思います。

三澤委員：

市長、市議会議員の任期にこだわる必要はないと思います。ここでは、基本的な考え方や方向性をどう持っていくかが大事だと思っています。

私は、館山市内の商業・農業・漁業地を廻っていますが、館山は力はあるけど、少子化からどのように若い人を引っ張ってくるかが本当の問題だと思っています。

今あるベースの上で観光農業、観光漁業などの方向性が大事だと思っています。

原委員：

総合計画は、市の最上位の方針として位置付けられ、市の基盤となるものなので、市長が代わっても方向性は変わるものではないと思います。

私も5年で良いと思います。

望月委員：

基本的には5年で良いと思います。委員の皆様の役職を拝見しますと、それぞれ任期のある役職に就いています。それぞれ基本計画の半ばで変わる方も大勢いらっしゃ

るかと思えます。

総合計画は、委員目線ではなく、市民目線に立って計画を進めていくべきだと思いますので、5年で良いと思えます。

三浦委員：

私も2年任期なので、交代する可能性も高いです。最初に決まった方向で良いと思えます。

石井（敏）委員：

市民目線という意見は大賛成です。先ほど4年という期間の根拠を示しましたが、4年より5年のほうが市民目線になるという根拠はあるのでしょうか。

事務局：

構想の期間について他団体の様子をみますと、近年、経済状況が不透明だったり、政権交代など国の制度も変わったり、将来的なものが見つらい中で10年が多いと思っています。中には市長の任期に合わせている団体もあります。

計画の期間の問題で4年が良いのか5年が良いのか、確実に明快な回答は無いと思いますが、市の目指す一定の方向性が変わるようではいけないと思っています。

計画期間については、これが変えられないということではありません。制度や社会情勢が変わったときに、変更も加えられることも先々想定していれば、年数にこだわるものではないと事務局では考えております。

杉井会長：

私も4年と5年とで大差は無いと思えますし、大半の方から5年に賛同するご意見もありましたので、期間につきましては、原案どおり5年で進めさせていただきたいと思えます。

田中委員：

今の話に付随して、時代に合わなくなったときに、期間の変更は想定されているのでしょうか。どういったときに変更の可能性があるのでしょうか。

事務局：

議会でご承認をいただければ、基本構想部分は10年で変わることは無いと考えています。ただ、基本計画の部分は変更が生じる場合があるという意味で申し上げました。

杉井会長：

以上で「③第4次館山市総合計画の策定方針について」の質疑を終了し、次の議事に進めさせていただきます。

④第4次館山市総合計画の策定スケジュールについて

（事務局より説明）

杉井会長：

質疑はございませんか。

無いようですので、次の議事に進めさせていただきます。

⑤館山市市民意識調査（案）について

（事務局より説明）

杉井会長：

只今、事務局より説明をいただきました。質疑やご意見がございましたら、挙手をお願いします。

森委員：

アンケートの対象は、3,000人無作為抽出ということですが、年齢・地域・男女比なども加味しているのでしょうか。

事務局：

層化無作為抽出の方法により、年齢・居住地区・性別のバランスを図り、偏りの無いよう抽出を行っております。

森委員：

コスト的にはどのくらい掛かるものなのですか。

事務局：

この業務につきましては、今年度、ちばぎん総研への業務委託の中で包括的にお願いしておりますが、コスト的には郵送料程度だと考えております。

また、調査票の15ページ、【問22】行政サービスの市民負担のバランスについて、選択肢が5つありますが、「3.現状のままでよい」を削除させていただき、回答は4択とさせていただきたいと思います。

杉井会長：

【問22】については、4択に修正するとのことですが、その他、何かございますか。

原委員：

アンケートは、回収し集計して終わりではありません。経年変化を計画づくりに活かせるのかどうか。同様の調査は他地区でも実施はあるのでしょうか。

また、他地区とのデータ比較をするのかなど伺いたいです。

ちばぎん総研：

アンケート結果については、やりっぱなしでは意味が無いので、結果を踏まえて深堀りをしたいと思っています。

市民や学生との懇談会の中でフィードバックする機会も用意していますし、経年変化で大きく変わっているところは、深堀りして計画づくりに活かしていきたいと思います。昨年、一昨年お手伝いした他地区の総合計画との比較もフィードバックし、皆さんで議論する材料を提供して施策にも結びつけていきたいと考えています。

アンケートは傾向をみるものであり、具体的などころまでは把握できませんが、経年変化やクロス集計したときに、目立った部分などについてはアドバイスしていきたい

いと思っています。

原委員：

よろしく申し上げます。

田中委員：

【問7】豊かな食文化、食の安全など、食に関する項目が無い点が気になりました。館山は農家も多いし、館山ならではの設問として地産地消、食育、学校給食の自給率などの項目は入れないのでしょうか。

また、【問4】の項目で、「11. 文化・スポーツ施設などが充実している」、「12. レクリエーション施設が充実している」とありますが、ここで指している施設が何のことなのか回答者が迷うのではないかと思います。

【問7】の「23. スポーツ・レクリエーション施設の整備や活動の振興」では、スポーツ施設とレクリエーション施設が一緒になっているので、違いがわかりにくいと思いました。

事務局：

食についての設問につきましては、設問の数と回答者の労力を考慮し、考えられるすべての質問を入れることは困難なため、ここでは入れておりません。

設問に無い部分については、最後の自由意見の記述欄で拾っていきたいと考えています。

レクリエーション施設のところは、確かにわかりにくいと思います。設問の中にカッコ書きなどで表記して、回答者が迷わないよう説明を加えさせていただこうと思います。

小金委員：

市民意識調査以外に、外部からの館山市に対する思いなどの調査を行う予定はあるのでしょうか。

事務局：

WEBアンケートを予定しています。

東京など、館山へ観光に訪れる方、館山に興味を持っている方などに広くご意見を伺ってみたいと考えています。設問設定につきましては、次回会議にてお示しする予定です。

また、その中で、観光の部分、館山独自の食とか、田中委員からいただいた食に対する設問も検討したいと思います。

石井（敏）委員：

無作為に3,000人を抽出ということですが、抽出対象外の一般の方でアンケートに答えたい方がいた場合にはどうするのでしょうか。

事務局：

パブリックコメントや、各所に意見回収ボックスを設け、アンケート以外でご意見

を頂戴できる場を設けたいと考えております。

このアンケートを希望者に配付するという事は、現状では考えておりません。

田中委員：

アンケートの一番最初に想定時間を入れるのはどうでしょうか。

前回調査の設問が10問でも半数しか答えてくれなかったということなので、何分くらい掛かるか記載することで回答率を底上げするアイデアとしてご検討ください。

杉井会長：

何分くらい掛かるのですか。

事務局：

副課長の高校1年生のお子さんが試したところ、40分掛かったとのこと。時間の記載についても検討します。

杉井会長：

その他ございますか。

望月委員：

アンケートは、8月発送ということで、時間が無さ過ぎるのではないのでしょうか。

前回のアンケートの回収率の結果を見るとほぼ50%ですね。40分掛かると先ほどありましたが、途中で止めてしまう人も出てくるのではないのでしょうか。

後でお礼のハガキを郵送するということでしたが、時代も変わっていますし、館山市を良くするためにとっても大切なことなので、できれば100%を目標に回収をお願いしたいし、多くの方のご意見を聞きたいです。

景品をつけてはどうでしょうか。経費を掛けないほうがもちろん良いですが、3,000人ということであれば、10円の鉛筆1本でも3万円、10年後の大切な問題なので、多少の負担は仕方が無いのではないのでしょうか。

回答者から無料で情報をいただくことについて、どう考えていますか。

ちばぎん総研：

これまで多くの自治体の総合計画をお手伝いしてきました。以前に佐倉市でも28ページのアンケートを実施しましたが、特に景品などはありませんでした。

自分の自治体のためのアンケートということで、税金でやっている中、お礼を設けてまで実施する自治体は無かったように思います。

望月委員：

10年前と社会情勢が変わっていることも考慮していただいて、郵送料よりも安い景品なども検討してもらいたいです。

事務局：

まちづくりのためにやっているという中で、基本的には自分たちの住んでいるまちを良くしたいという思いでご協力いただきたいと思います。

望月委員：

回収率を上げる策を考えなければいけません。内容もちろんですが、回収率があつてのアンケートだと思います。

事務局：

統計学上、信ぴょう性のある標本数（サンプル数）は、館山市の人口に対しては、1,076人分あれば適当であるとされますので、回収率が半分でも信頼できるデータが得られると考えております。

望月委員：

回収率100%を目指すという気持ちでお願いしたいと思います。

古橋委員：

アンケートが届いた側の気持ちで考えてみると、基本構想に自分がどのように関わることがポイントではないかと思います。

子ども・子育て会議でも、子育て家庭全世帯にアンケートを実施しましたが、回収率は半分くらいでした。前回の54%でも素晴らしい数字だと思います。

また、アンケート調査は、傾向を捉える手段だと思いますが、その紙面の中に「今後の具体的な意見をいただく場にもぜひご参加ください」という文章があれば更に良いと思いました。

杉井会長：

アンケートの中身についてご意見がありましたらお願いします。

安田委員：

このアンケートは市民のみが対象なのでしょうか。法人や各種団体へのアンケートもあるのでしょうか。

事務局：

個別の法人は難しいかと考えていますが、各業種やNPOなど、一定のくくりの団体や協議会などに、個別に団体ヒアリングという形で話をお伺いできればと考えています。

三澤委員：

市議会議員にもアンケートを実施したらいかがでしょうか。

事務局：

市民に対して無作為ということで選ばせていただいていますので、市民として抽出される方もいらっしゃるかと思います。

森委員：

前回の結果を見ると若年層の回収率が低いです。

いろいろな世代の考えが盛り込まれなければいけないと思いますので、例えば、館山市HPやインターネットで若い世代などが簡単に回答できるような仕組みの工夫をしたらいかがでしょうか。

事務局：

ご意見のとおり、若年層の回収率が低く、回答者が偏ってしまう可能性があることは承知しております。そのため、今回は将来を担う10代の中高校生に対しては個別にヒアリングを予定しておりますので、若い世代に対してのWEBアンケートの実施は難しいと考えています。

杉井会長：

以上で質疑を終了し、決をとりたいと思います。

原案のとおりでよろしいでしょうか。

委員：

(異議なし)

事務局：

想定時間や最初のアンケート趣旨については、検討して修正させていただきたいと思えます。

原委員：

若い世代の意見は本当に大切だと思っています。

例えば、市内の高校何校かに時間をとってもらって、授業の時にアンケートをとってデータを残す。無作為でないため、実際に将来10年後ここにいるかどうかは確実にわかるので、検討してみてもいいでしょうか。

金丸市長：

10年後を視野に入れると、若い世代の意見は重要視するべきだと思いますので、アンケートもしくは意見を聴く機会を作ることを検討したいと思います。

杉井会長：

以上で本日の議事を終了させていただきます。

活発なご意見ありがとうございました。

長期間に渡って審議が続きますので、今後とも積極的なご意見をよろしく願います。本日はありがとうございました。

⑥その他

事務局：

事務局よりご連絡です。次回の審議会日程ですが、10月23日(木)にご出席いただける委員が多かったので、午後1時半より本日より同じコミュニティセンターで開催させていただきたいと思えます。

長時間にわたるご審議、活発なご意見をありがとうございました。

以上